避難訓練での校長の話

R2.12.11

今回の避難訓練では、２つのポイントに注目して見ていました。一つ目は、素早く点呼ができているか、二つ目は、（その結果として）、避難が完了するまでの時間です。
実は、この二つは、確実に避難するためには、最も重要なことです。

ところで皆さんは、今から約１０年前の２０１１年３月１１日に何があったか覚えていますか。…東日本大震災が起こった日です。あれから１０年がたとうとしています。

その当時、皆さんは何年生でしたか？
（校長室掃除に来てくれている）中学３年生の生徒に聞いてみましたが、幼稚園の年中だった、ということですので、高校３年生だったら小学２年生、ということになりますね。皆さんは、あの日の事を覚えていますか。

私は、あの日のちょうどの今頃の時間（１５時頃）は、この学校にいました。今の皆さんと同じように、校庭に避難していました。

東日本大震災によって、本校生が亡くなったり、怪我をしたり、ということはありませんでしたが、実は一歩間違えば、人命にかかわる大惨事になっていた可能性がありました。

今日はその時の話をしたいと思います。
２０１０年度（平成２３年度）は、附属中学の一期生が中学３年生になった年です。３月１１日は、ちょうど高校入試の合格発表の日で、中学３年生はイングリッシュキャンプで、茨城県の「とちぎ海浜自然の家」で活動をしていました。

その日の１４時４６分、生徒たちは、「とちぎ海浜自然の家」で、英語を使った様々なアクティビティを行っており、いくつかの班は、海岸に降りて活動をしていました。地震があってすぐ、生徒たちは ALT の先生と一緒に、急いで「とちぎ海浜自然の家」まで戻りました。「とちぎ海浜自然の家」は海岸から５０ｍほど離れた高台にあるのですが、ちょうど避難が終わった頃、津波が押し寄せてきました。

幸いにして、本校生は無事でしたが、当時、海岸にいて逃げ遅れた人（あるいは逃げずにいた人）が何人かいて、命を落とされたそうです。

また、建物の中で活動していた班も、地震で天井が崩れてきて、ALT が怪我をしたそうです。

建物は崩壊の危険性があったため、中に入ることが出来ませんでした。そのため、寒い中、生徒たちは屋外にあった「ビニールハウス」の中で、避難を待ちました。食べるものは、カンパンのみ。みんなで分けて食べたそうです。

しかし、この日は、帰る日ではなかったので、帰ろうにも移動手段がありませんでした。そこで、先生方は近くにバス会社がないか、歩いて探し回りました。そして、たまたま２キロくらい離れたところにバス会社があり、「なんとか生徒を連れて帰りたいんです」という必死の懇願のお陰で引き受けてくれることになりました。

（注）実は、「とちぎ海浜自然の家」がある鉾田市は、かなりの地震の被害を受けていましたが、当日は、停電していましたので、被害の実態が不明だったため、本当はそれどころではなかったにもかかわらず、先生方の熱意にほだされて引き受けてくださった、ということも後からお聞きしました。

バスには乗れたものの、電気が通っていないので、道路には信号がついておらず、いたるところで渋滞していました。普通なら数時間で行けるところが、数倍もかかりました。夜中の３時近くになって、やっと佐野高校までバスが到着しました。

その間、先生方は１０５名の生徒の家に、一軒一軒電話し、無事を伝え、こちらに向かっていることを伝えました。すると、保護者の方はみな泣いていたそうです。ラジオなどでの津波の報道を聞いて、我が子が死んでしまったかも知れない、と思っていた保護者がたくさんいました。

（注）この話は、実際に本校から数時間にわたり、生徒１０５名の保護者全員に電話をかけ続けていた当時の中学３年生の学年主任の青柳和宏先生（現在、足利市立毛野中学校の教頭先生）から聞きました。これから海浜自然の家に車で向かおうとしていた矢先だったので、たまたま、学校に残っていたため、現場との連携や保護者への連絡が可能でした。また、地震の直後は、携帯電話や固定電話もつながらず、学校からつながる電話は、唯一、職員玄関付近にある「公衆電話」しかありませんでした。

このとき、全員無事に帰ってこれたのは、すぐに全員が一人残らず、高台に避難できたことではないかと思います。

皆さんの先輩方が体験したことから学んだこととして、皆さんに伝えたいことが、２つあります。

１つ目は、まず、すばやく避難することです、どこに避難するか、も重要です。
２つ目は、すぐに点呼すること、点呼に時間がかかりすぎると、次の行動に移ることができず、命取りになることがあります。また、万一、人数が足りなければ、いち早く知らせなければなりません。現場に取り残されている可能性が高いからです。

災害からの避難では、すばやい点呼と避難完了までの時間（と場所）が重要です。

避難訓練って本当に必要なの？という声を生徒から聞いたことがあります。避難訓練で、ただ言われたことを何も考えずにやっているとしたら、その人にとっては、何の意味もないことかもしれません。避難訓練を行う目的は、避難の際に大切なことを、頭と体で覚えることです。

「備えあれば憂いなし」といいますが、いつどこで起こるかも知れない災害から身を守るのは、自分の頭で行動できるか、に係っていると思います。今日の体験を、今後のもしもの時に生かしてください。

以上です。

（注）こうした出来事に立ち会った本校の教職員は、現在ではほとんどいなくなってしまいました。しかし、被災の体験を語り伝えることは大切なことだと思います。記憶を掘り起こし、今回の避難訓練で話すことが出来て、良かったと思いました。